

第3回尼崎市一般廃棄物処理基本計画策定部会 議事概要

日時：令和2年6月19日（金曜日） 午前9時30分から午前11時20分まで

場所：市役所本庁舎北館 4階 4-1会議室

出席委員：5人

傍聴者：新型コロナウイルス感染症対策として傍聴取り止めのため、傍聴者なし

○開会

- ・定足数の確認
- ・交代のあった関係課職員の紹介
- ・資料確認

○議事

事務局：

それでは、ここからの議事進行につきましては、当審議会条例第6条に基づき、部会長にお願いしたいと思います。部会長、よろしく願いいたします。

議題1 基本理念・基本方針について

部会長：

それでは、議事に入ります。「議題1 基本理念・基本方針について」、事務局から説明をお願いします。

事務局：

資料1について説明

部会長：

ただいまの説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員：

資料1の1ページにある「1 基本理念」の文中、「②SDGsの達成につながる視点からの取組みも必要です。」にかかる内容として「市民生活の質の向上や地域経済の活性化など」とあり、地域に関することとグローバルでより広い視点であるSDGsに関することが1つの文章の中で述べられています。間違いではないですが、SDGsの達成を掲げるのであれば、持続可能性や国際的な課題についても取り上げて記載したほうがよいと思います。

また、資料全体を見ても、SDGsについてそれほど記載がない印象があります。ここでSDGsを取り上げるのであれば、例えば、重点施策について、SDGsの各目標との紐付けを行うなどしておく必要があると思います。そこまでしないのであれば、冒頭にSDGsについて記載しないほうがよいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：

最終的な成案では、SDGsの17の目標との関連性を示す予定です。

委員：

それであれば、1ページ目で、持続可能性や国際的な課題への言及を行ったほうがよいと思います。

部会長：

社会を変えていくという大きな視点と一人ひとりの行動を変えていくという個別の視点が混ざっているように思います。例えば、3Rについてはこれまでリサイクル以外に何をするのかという印象だったものが、最近ではリフューズ（断る）などを含めたより上流での対応が求められてきており、こういった話は社会全体で取り組むべき課題だと思います。全体として、もう少し、大きな視点と個別の視点を書き分けたほうがよいと思いました。おっしゃっている方向性は正しいと思います。

他のご意見はいかがでしょうか。

委員：

些細なことですが、資料1の3ページが示している部分で視点との関係性が整理されていますが、いずれの基本方針にも視点①～④のすべてが紐付いており、特に示す必要性がないと思いますので、この見出しからは削除してもよいのではないのでしょうか。

事務局：

内部でも色々と議論したうえで、このような記載としたが、おっしゃるとおりであるため、対応します。

委員：

2点ご提案したいと思います。1点目ですが、視点①～④の「もったいない」の順番について、順番があるのであれば、②と③を入れ替えたほうがよいと思います。先ほども、小さな視点から大きな視点へという書き分け、整理をしたほうがよいのではないかという議論がありましたが、そこでの兼ね合いからも、入れ替えたほうが整理されるのではないのでしょうか。

2点目ですが、基本方針1について「3Rの取組みを支える仕組みづくり」とありますが、その内容としては、「もったいない」の意識を高め、人づくりを行うといったものになっており、タイトルと合わないように感じました。

事務局：

1点目については、視点として小さな視点から大きな視点への並びとするほうがわかりやすいと思うため、そのようにしたいと思います。

2点目の基本方針1の「3Rの取組みを支える仕組みづくり」については、最後まで悩んだところであり、後ほど説明させていただきますが、条例等で市民・事業者に行ってもらいたいことを整理していきたいと思っており、そのことを指して仕組みづくりとしています。より適切なタイトルがあれば、改めていきたいと思っています。

部会長：

後半の2点目の議論は、全体の構成に繋がるため、重要だと思います。私も基本方針については、どれも内容がかなり重複しているように思いました。例えば、基本方針をなくしてみると重点施策にどうつながるだろうということを考え、基本理念から一気に施策をまとめられないかと考えてみましたが、結局、すべての分野、施策について、普及啓発、行動をサポートし、全体的に取り組む仕組みが必要と考えられます。基本方針を定めなくても、ダイレクトに整理できるのではないかと思いましたし、そのほうが、わかりやすくなるのではないかともし思いました。いかがでしょうか。

委員：

今のまとめ方は少し複雑すぎるように思います。枝分かれしすぎているようにも思います。後ほどご説明していただく資料3でも基本方針ごとにまとめられていますが、基本方針はなくてもよいように感じます。

部会長：

私も基本方針がないほうが、基本理念にある4つの視点とダイレクトに繋がる構成になるのではないかと思います。一度、このやり方で整理してみて、大きな視点から小さな視点に飛躍してしまうなどでまとめづらいようであれば、新たに視点を設けるなり、意味付けをしてもよいのではないのでしょうか。

委員：

例えば、基本方針は掲げておいて、施策がどの基本方針に入るかという表現をやめるのもひとつではないのでしょうか。基本方針のいずれかに施策を当てはめようとするために、苦勞するということもあると思います。基本方針を掲げておきたいという考えも理解できますので、それはそれで基本方針は掲げておいて、施策とのつながりは、そこまではっきりさせないという方法もあるのではないのでしょうか。

部会長：

具体的にいうと資料3を変更するとすれば、基本方針ではなく、基本理念の①～④で分類し、基本方針との関連性を示すようなやり方もあると思います。

事務局：

今回の基本計画では、最終的には市民のみなさまの行動への後押しが目的の1つになります。その意味でも、この4つのもったいないを切り口とした啓発が考えられます。基本理念と基本方針が出てくることで、わかりづらくなっている部分もあると思いますので、基本理念にある4つの視点を中心に再構成を検討します。

部会長：

非常に大きな変更となりますが、よろしくお願ひします。その他にいかがでしょうか。

委員：

基本方針1～3は3Rについての話題であるため、今の議論のとおりだと思います。気になるのは、災害の観点についての記述が薄いように思います。基本理念で、みんなで減量などに向けて行動するとな

っているため、いかに情報を発信、共有していくかということ、基本方針の中で記述してもよいのではないかとも思いました。災害、情報発信や共有は、すべて ICT や Society 5.0 の考え方に繋げる必要はないと思いますが、新たなツールでの情報発信や共有、SDGs との関係であれば、環境学習のようなものとも関連した記述があってもよいのではないかとも思いました。

また、ごみをつくらないということでは、食品ロスとプラスチックが取り上げられていますが、一般的には紙ごみについても取り上げられることが多いと思いますが取り上げられていません。その点はいかがでしょう。

事務局：

災害については、基本方針 4 の中で、ひとつレベルを落として記載している状況となります。また、情報発信や共有については課題であると考えております。高齢者等のインターネット利用の有無による情報格差、外国人居住者の増加による多国語化などへの対応も必要となるため、この後ご説明する資料 2 の基本方針 1 施策 1 の中の 4 に「すべての市民に向けた情報発信」として記載しております。ご指摘のあった内容について施策の位置づけとして、レベルをあげるかについては、議論いただきたいと思えます。

また、紙ごみについては、情報媒体が紙からインターネットに移っており、生産量は減っています。そのため、紙ごみはリサイクルを進めれば、リデュース・リユースについて取り上げなくてもよいのではないかと今のところ考えています。

部会長：

災害ごみについては、基本方針に書くのか、基本理念の①～④に災害の話を加えるのかのどちらのレベルに持っていくかについては検討が必要でしょうか。

事務局：

災害ごみについては、基本理念の「環境だけではもったいない！」に入れてもよいのではないかと思います。

委員：

私も、どれかに入れるということであれば、環境が近いと思えます。

部会長：

それでは、災害ごみについても、基本理念に入れるような方向で整理していただきたいと思えます。その他にいかがでしょうか。ひとまずよろしいでしょうか。

議題 2 施策の柱・重点施策について

部会長：

それでは、「議題 2 施策の柱・重点施策について」、事務局から説明をお願いします。

事務局：

資料 2・3、参考 1～3 について説明

部会長：

ありがとうございました。みなさまいかがでしょうか。

委員：

資料 3 の 4 ページの「生ごみ・食品ロスの削減」で、食べ残しの削減や手つかず食品の削減などの市民に直結したキーワードを入れていったほうがよいのではないのでしょうか。もう 1 点、資料 3 の 5 ページの「プラスチックごみの削減」についても、最もターゲットになるのはレジ袋やペットボトルなどになるため、こちらも市民に身近なキーワードを入れたほうが具体的になるためよいと思います。また、プラスチックごみの削減になぜ取り組まなければならないかについては、海洋ごみなどの世界的な問題であることに触れつつ、国際的な動向や喫緊の課題などについても啓発するような話があってもよいのではないのでしょうか。

また、資料 2 の 1 ページの基本方針 1 の施策 1 の 3 に「環境教育・環境学習の推進」とありますが、重点施策にはなっていません。ここでの環境教育・環境学習は、いわゆる教室や講座で行うものを指しているように思えますが、そうであるなら、もっと積極的に知識を身につけてもらえるように、啓発的な内容については、資料 3 の 1 ページの部分にも記載していくべきだと思います。また、SDGs との関連付けを意識した記載とすべきだと思います。

部会長：

私も同じように思っており、基本方針を無くした際に、各施策が各視点のどれにあてはめるかを自分なりに割り振ったうえで、視点ごとの施策の数、重点施策の数を数えてみると、視点によって施策と重点施策の多少に偏りがあるように思えました。その中で、先ほどおっしゃっていたプラスチックについては、①ごみになるのにもったいない！とも分類できますし、②環境だけではもったいない！にも分類できると思いますのでバランスを取ってはいかがでしょうか。また、環境教育についても、④みんなで作らなきゃもったいない！の中核に据えるよう重点施策の 1 つとしてあげて、長期的に見ても SDGs の大きな話から日常の小さな行動まで広く支える市民を育てていくという位置付けもできるのではないのでしょうか。

事務局：

食品ロスについては、市民の認知が低いと思っており、紙ごみについては広く認識が行き渡っていると思っております。プラスチックについては、一定理解が進んでいると考えており、何をするのかを中心に取上げていて、マイクロプラスチックの話はあえて記載しておりません。レジ袋については、7 月から国の義務化もあるため認知が広がると考えており、食品ロスを中心にしている面があり、食べ残しなどが書かれていないため、記載するようにしたいと思います。

委員：

SDGs を掲げているのであれば、やはり海洋ごみなどの話題はもっと加えたほうがよいと思います。

部会長：

この他に、行政が引っ張っていく内容とするのか、市民の自発的な行動を促すような内容とするのか、バランスを整えていくのがよいと思います。

事務局：

もちろん SDGs はプラスチックとも関係しており、普段の生活の中でポイ捨てを止め、リサイクルを進めるということで、海洋に流れていくプラスチックを減らしていくことが必要となりますので、書き方を考えていきたいと思います。

委員：

この内容に違和感があるのは、市民生活が最も大事であることはわかりますが、そこにこだわるのであれば、SDGs に関することは入れないほうがよいと思いますし、SDGs を入れるのであれば、随所にその視点が入ってこないといけないと思います。

事務局：

もう一度、全体的に SDGs との関係も洗い直し、見直していきたいと思います。今回の資料については、行動に着目しており、啓発についての記載が薄い点があり、啓発についても、市民一人ひとりの心にどう届けるかという部分は課題だと思っておりますので、検討していきます。

また、プラスチックごみの削減をするため、マイボトルについて触れています。これは、ペットボトルの使用削減を念頭に置いたものであり、環境への流出、マイクロプラスチックの発生抑制にもつながる施策であるため、ペットボトルなどの文言を入れていきたいと思います。

委員：

今、説明があったように削減について取組を実施している人はすでに実施しているので、ロコミで根気よく広げていかないといけないと思います。SDGs については、何のことかわからないという市民が多いと思うので、もっと身近な話として伝えることが必要ではないかと思います。私も以前、紙1枚にSDGs についてまとめたものの回覧などを行ったが、質問される方は誰もおらず、一般の市民のみなさんには、SDGs を関係があるものと思われていないと思います。また、企業にも広めていただきたいと思います。

スーパーマーケットでの売り方にもターゲットを絞ってもらえないかと思います。プラスチックトレイごみについては、関西のチェーンストア協会と阪神間の消費者団体とともに削減のお願いをしましたが、なかなか変わりませんでした。他に、お刺身のツマはたくさん入っているが、生ごみ・食品ロスにつながるため必要ないと思っており、そういった点の改善もできないかと思っています。

部会長：

ありがとうございます。消費者に近い事業者にももう少し頑張ってもらい、普及啓発に協力をしてもらえないかということかと思っています。今回資料では、食品ロスの部分で、市民に食品を提供する事業者の方について言及がありますが、その他にも例えばプラスチックごみなどで、事業者に期待できる役割があるかもしれません。

事務局：

そうですね。スーパーマーケット事業者とはレジ袋協定を通じて、取組を行ってきましたが、7月からレジ袋は無償配布ができなくなるため、今後、この枠組を活かす意味でも、食品ロスなどレジ袋だけに限らないことについても小売業界と取り組みたいと考えています。また、意識がある事業者は、既にトレイの店頭回収などにも取り組んでおられるので、そうした取組も広めていければと思います。

部会長：

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

委員：

経済的手法を考えていただいております、有料化や事業者の処理手数料の値上げなどのごみを出すと余計にコストがかかる方法を考えているように見受けられます。2点お伺いしたいのですが、1点目はごみの有料化について、周辺自治体の状況を簡単に教えてもらいたいです。2点目については、経済的手法ということで、減らすと得をするということを入れてもらえないかと思っています。例えば、ごみの収集や処理にかかっている費用について、有料化をすれば、他に予算を振り向けることができ、得をするということが示せればと思っています。

事務局：

近隣で家庭ごみの有料化をしている自治体は、大きな自治体では京都市だけかと思います。尼崎市は、指定袋を導入しており、それを購入することにより、市民としては既に部分的には有料化されている感覚だと思いますが、これには処理コストは含まれていません。2点目の減らすと得するという部分については、「コストをかけるのもったいない！」に繋がると思いますので、最終的な成案ではアピールしていきたいと思います。ただ、現行計画の中では、ごみを減らすと処理施設1基の建替が必要なくなるため50億円が不要になるとし、ごみの減量が進まなければ有料化の導入も検討するという約束のなか、10年間市民・事業者と取り組んだ結果目標を達成しようとしています。そのため、次期計画においても有料化導入は決定事項として位置付けるのではなく、今後減量化がうまくいかない場合の施策として位置付けます。ただ、次期計画では、有料化の導入についてごみ処理システムを維持するための費用の負担のあり方からも議論していきたいという点が、減量施策のみで捉えている現行の基本計画と比較して変更された点であると考えています。次期計画のごみ量推計をもって新ごみ処理施設の施設規模を決定していくことになっており、ごみ量が増えると、処理が出来なくなるという市民の日常生活に影響を与える深刻な状況となるため、その際には有料化も検討するというようにしております。

委員：

ありがとうございます。現行計画でごみが減らなければ有料化を行うとしているのであれば、ここで、有料化を行うという話をしづらいかもしいないと思いましたが。有料化については、程度問題もあり、100%コストを乗せるわけではないと思います。また、周辺市の状況も関係し、周りの動向も見ながらになると思いますので、よくわかりました。

部会長：

有料化して、袋に費用を乗せるのは公平だと思いますが、ごみ総量が減ったからといって、収集費用が比例して減るわけでもないため、ごみの総量が減ったから、市民に負担を求めないということだけで

考えなくてもよいかもしれないと思います。

委員：

不公平感という考え方ですが、大切だと思います。排出量が多い方、少ない方、いずれも税金から処理費が出ていると、不公平になるため、こういったことをお伝えすると市民の方々の理解も進むのではないかと思います。

委員：

よく検討されており、十分ではないかと思いますが、有料化については、現時点では、するかもしれないし、しないかもしれないという理解でよいのでしょうか。

事務局：

次期計画の内容に有料化を行うというところまでは書けないと思っており、有料化を行うのであれば、より深い議論が必要ではないかと思いますが、今回の計画策定で有料化を決めるものではないと考えています。

委員：

ということであれば、重点施策としてごみの有料化が示されていることに違和感を感じています。施策として示されるのはわかりますが、重点施策として示されると家庭系ごみ有料化を行うように見えないかと感じています。

また、SDGsの議論については、グローバルな考え方でありつつも、活動としてはローカルであるため、日本でもローカルSDGsをどう設定するかという議論もあり、既に行っている施策が実はSDGsに当てはまっているということもあると思います。新たにより重点的に取り組むというものと、既に取り組んでいることがSDGsの達成に向けた取組になっているものを整理されるとよいと思います。尼崎市は、SDGs未来都市に選定されていないが、総合計画でも取り上げているため、そこを補完する形で整理されてはと思います。

事務局：

SDGsは委員のみなさまから多くの意見をいただいているため、書き方を考えていきたいと思っています。

部会長：

基本理念の文中において、SDGsの達成のために新たに重点的に取り組むという書き方は大げさであるとは思いますが、今、行っている行動がSDGsの達成に繋がっているという書き方でもよいのではないかと考えています。

事務局：

今、ご意見をいただいている中で、既に取り組んでいる施策がSDGsに繋がっているという点については、書き方を検討したいと思います。

部会長：

有料化については、私も、重点施策に挙がっていたので、有料化する前提と考えていたが、そうではないということで理解しました。ただし、有料化することになったときの考え方の整理は必要で、それを踏まえた書き方を検討してはと思います。重点施策にするかどうかを含めて検討してください。

委員：

見直しという書き方もあるため、そういった書き方もあると思います。

委員：

経済的手法の検討など、表現を丸めた示し方もあると思うので、ご検討ください。

部会長：

「コストをかけるのもったいない！」に有料化の話を入れると露骨だと思うので、他の視点に入れるなどについてもご検討ください。

委員：

紙ごみの件、リサイクルを進める時に、雑がみについては書かれていますが、機密書類、特に事業者から出るものについて、資源化するとかなりごみが減ると思うので、どこかに入れておいたほうがよいのではないかと思います。

事務局：

過去にシュレッダーしたものは古紙回収に回せないという話があり、リサイクルできることが行き届いていないところもあると思います。溶解処理については、コストがかかるため、課題であると考えています。シュレッダー紙くずについては、リサイクルが進んでいないのはそのとおりだと思います。機密書類という文言をいれるかどうかについては、検討します。

雑がみについては、中国への輸出ができなくなった影響が生じており、持続的な資源化ルートを維持するという点については課題であると思います。

委員：

紙を燃やした場合、1.5 倍二酸化炭素が出ると聞いています。かなりの量が機密書類になっていると思うので、ターゲットにできればと思います。中国は輸入禁止になりましたが、他のアジア各国については、今後 2～3 年を考えると、日本の古紙は品質が高いために、行き場がまったくないという状況ではないと認識しています。

委員：

資料 3 の 4 ページにフードドライブを推進するとしていますが、するのであれば、兵庫県の審議会でも、フードドライブという言葉がわからないという話があがっており説明が必要だと思います。また、フードバンクが書かれていないことに少し疑問を感じました。

事務局：

より市民に近い取組としてフードドライブを書いています。

委員：

ここは具体的な施策の例なので、市民から見ると、どうすればよいかということがわかったほうがよいと思います。神戸市などでは、定期的にスーパーマーケットで集めているので、そういうシステムを推進するような話を書いてもよいのではないのでしょうか。

事務局：

フードバンクを記載したほうがよいというのはどのような観点でのご指摘かもう少し教えていただければと思います。

委員：

環境省や消費者庁は、フードバンク・フードドライブと並列して記載しており、書き方を参考にしていただければと思いますが、何をすればよいかわかるような書き方にしたほうがよいのではないかと思います。

部会長：

大きな意図を書いた上で、知らない方もいらっしゃるので、いくつか例示を挙げながら書いていくような書き方がよいのではないのでしょうか。

委員：

フードドライブは家庭から食品を提供するもので、フードバンクは企業や農家から食品を提供するものだと思うため、具体的な中身を書いたほうがよいのではないのでしょうか。

事務局：

言葉が浸透していないものについては、その内容がわかるように工夫したいと思います。

部会長：

構成を整理し直してまとめてもらいますが、それでよろしいでしょうか。

他にも何かご意見がありますでしょうか。

では、いろいろとご意見をいただきありがとうございますございました。

中身は変わらずとも、見た目が変わると言うこともあるかと思いますが、よろしくお願ひします。

事務局にお返しします。

事務局：

みなさまご議論いただきありがとうございます。

次回は、第4回部会、8月19日に開催予定となります。ありがとうございます。

以 上